

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

令和3年5月27日（木）

3. 調査の対象

泉佐野市立中央小学校 第6学年，全児童

実施児童数（84人）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、小学校は国語及び算数，中学校は国語及び数学。

イ 出題範囲は，調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし，出題内容は，それぞれの学年・教科に関し，知識・技能に関する内容と，それらを活用する力や構想を立てて実践し評価・改善する力などに関する内容とする。

ウ 出題形式については，選択式及び短答式に加え，記述式の問題とする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童生徒を対象に，学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

(3) 学校の取組に関する調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に，学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。

※平成29年度より，文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は，整数となっております。

令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

- ・平均正答数の全体的な分布状況は全国に比べ、中位層は変わらないものの、上位層と下位層の二極化が見られる。

平均正答率（本校 60／泉佐野市 60／大阪府 63／全国 64.7）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問	
<p>【書くこと】</p> <p>○自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える 3一 丸山さんの【文章の下書き】の構成についての説明として適切なものを選択する (51.2/64.8)</p> <p>○目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する 3二 丸山さんの【文章の下書き】の…部を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す (45.2/56.6)</p>	<p>【言葉の特徴や使い方に関する事項】</p> <p>○文の中における主語と述語との関係を捉える 3三(2)イ 丸山さんの【文章の下書き】の一部イで、～部「残されています」の主語として適切なものを選択する (47.6/67.0)</p> <p>3三(2)オ 丸山さんの【文章の下書き】の中の一部オで、～部「すぐに」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する (38.1/43.6)</p>	

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
(43) 国語の勉強は好きですか	52.3	58.4	◇	6.1
(44) 国語の勉強は大切だと思いますか	96.5	93.2		3.3
(45) 国語の授業の内容はよく分かりますか	90.5	84.2	◇	6.3
(47) 国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか	85.7	82.2		3.5
(49) 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いていたりしていますか	76.1	71.6		4.5
(68) 解答時間は十分でしたか	48.8	70.3	○	21.5

○(43)の質問では、全国値に比べ低い肯定値に留まる。しかし、質問項目(44)は全国値よりも高い。興味や関心を高めることができる、また、楽しみながら言語能力を身に付けることができるように授業改善を進めていく必要がある。

○(45)の質問から、各授業者が丁寧に授業準備をし、児童の実態に合った授業を展開できていることがうかがえる。

○本校研究テーマ「書く力」を伸ばす取り組みの積み重ねが質問項目(49)として表れていると考える。学校として取り組みを継続することが大切だと考える。

○(68)の質問から、本調査のような問題に慣れていないことが分かる。定期的に類似した問題を解くなどの学校としての取り組みの必要性を感じる。

令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

- ・平均正答数・中央値・標準偏差において、すべて全国平均と同じであった。しかし、その全体像はなだらかなカーブを描くものではなく、いくつかの歪な起伏がみられる。

平均正答率（本校 70／泉佐野市 68／大阪府 70／全国 70.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数	特徴がみられた設問	
<p>【数と計算】 ○計算結果について数量の関係に着目した考察を言葉や数値を用いて記述する 4 (3) 基準値を1と見たときに比較量が小数に当たるわけを書く。(45.2/51.5)</p> <p>【図形】 ○図形の計量について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、筋道を立てて説明する 2 (1) 三角形の面積の求め方について理解している。(48.8/55.1) (2) 複数の図形を組み合わせた図形の面積についてわかることを選ぶ。(61.9/72.6)</p>	<p>【変化と関係】 ○日常の事象を数理的に捉え数学的に表現・処理する 1 (2) 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する。(82.1/88.7)</p> <p>【データの活用】 ○統計的な問題解決するために、集めるべきデータを集めたり、分類整理したり、表やグラフからデータの特徴や傾向を読み取る 3 (4) 帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を言葉と数を用いて記述できる。(61.9/52.0)</p>	

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
(52) 算数の勉強は好きですか	71.4	67.8		3.6
(54) 算数の授業の内容はよく分かりますか	91.7	84.6	◇	7.1
(57) 算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	90.5	83.2	◇	7.3
(58) 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	96.4	89.0	◇	7.4
(68) 解答時間は十分でしたか	88.1	81.7	◇	6.4

○学力状況調査から

基本図形の面積を求積できていない児童が過半数いたことがわかった。問題に書かれている数字を操作したのみで構成要素の意味理解ができていない児童が28.6%も存在し、この部分において、全国平均より8.5ポイント多かった。必要な情報を選び出すことに課題があるといえる。

○学習状況調査から

- ・(52) 算数の学習について肯定的に捉え、学習課題に対しては、意欲的に取り組んでいることが読み取れた。
- ・(54) 年々ポイントは上昇し、各授業者が児童の個に応じた授業を展開できていることをうかがい知ることができる。
- ・(57) (58) 新しい課題や困難な課題に対峙しても、あきらめずに粘り強くやり抜こうとする児童の割合は9割を超え、全国平均と比較しても7ポイント以上上回っている。この意欲を学力として定着させていけるよう、更なる授業改善に取り組む必要を感じる。

令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【家庭生活の様子】	<p>○学習塾に通っている児童が多く、学校の宿題と塾の学習で平日は忙しく過ごしている児童が多い。</p> <p>○地域の行事や出来事に関心のある児童が少ない。</p>	<p>○普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか <34.3/29></p> <p>○学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか（インターネットを通じて教わっている場合も含む） <85.7/78.3></p> <p>○今住んでいる地域の行事に参加していますか <33.3/58.1></p>
【家庭学習の様子】	<p>○読書への関心は近年高まってきており読書量は増加の傾向にある。しかし、新聞は馴染みがない。社会的なニュースに興味や関心のある児童が少ない。</p>	<p>○学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く） <17.9/18.2></p> <p>○新聞を読んでいますか <8.4/14.8></p>
【学校での学習の様子】	<p>○人との関わりを大切にしようとする気持ち、優しい心や正義感を持つようとする気持ちがある。また、異なるものを受け入れ、話し合う姿勢を持っている。</p> <p>○図書館資料を活用した調べ学習や構成を考えた文章作りをして発表する学習を経験している。</p>	<p>○人が困っているときは、進んで助けていますか <92.9/88.7></p> <p>○いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか <98.8/96.8></p> <p>○自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか <89.3/>70.1></p> <p>○5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会が、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか <72.7/62.5></p>

本校の取組

◎これまでの取組

本校の研究主題は、「自ら考え、書き、伝え合う力の育成」である。自分が考えたことや思ったことを言語化し、相手に分かりやすく伝える力を育みたいと考えている。昨年度からは特に、「文章で表現する力＝文章を書く力」に焦点を当て、取組みを進めている。昨年度は、大阪府から研究指定をいただき、「学校図書館資料を活用した授業づくり」に取り組むことができた。各学年、様々な教科で図書館資料を活用し、調べたことや考えたことを文章にまとめ、発表し合う授業を盛んに行った。また、講師を招き、教員校内研修を積み重ねるとともに、書く力を育むための指導方法を研究してきた。今年度、さらなる研究・実践を積み重ね、子どもたちの書く力を伸ばしていきたい。

学力向上の取組みとして、一つ目に、朝学習の時間に全学年で年間を通して「文章読解ドリル」を実施していること。物語や説明文の読み取り問題から言葉の特徴や使い方に関する問題もある。今年度はドリル導入二年目となる。六年間の積み重ねが学力の大きな下支えとなると考える。二つ目の取組みとして、国語科「書くこと」学習領域の授業づくりを研究実践していること。全児童が授業に積極的に参加でき、全員が文章を書くことができるワークシートを使用した授業づくりに取り組んでいる。三つ目は、算数科における問題解決型学習を全クラスで行っていること。同じ学習の流れで学力をつけることができることや算数をどのように学習するのかという学習の仕方も一緒に学ぶことは、学習の積み上げを特段に要する教科の特性を考えると有用な指導法である。四つ目は、算数科での少人数・習熟度別指導である。学年や単元に応じて学び方を変え、分かりやすい・身につく授業を行っている。また、少人数指導担当教員が休み時間を用いて、さらに少人数で指導しているため、一定の学力が四年生以上の全児童に保証されている。五つ目は、全学年毎日宿題に出している算数型音読の「マストレ」である。毎日同じ問題を解きながら音読することで、数量の感覚や計算力の向上、知識の定着が望まれる。

生活向上の取組みとして、「あんぜん・あいさつ・あいてのきもち」を生活重点目標としている。また、各学年が児童の実態を踏まえながら、学年目標を立てている。各学年が学年目標や生活重点目標にせまるための取組みを、年間を通じて創意工夫し、活発に行っている。また、委員会活動においても、生活重点目標を柱とした取組みを実施したり、児童朝会で啓発を行ったりと、児童が主体となった取組みが多く見られている。

◎これからの取組

今年度の全国学力・学習状況調査結果から本校の課題を改善するために、以下のことに取り組む。

【国語】

「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「書くこと」において大きな課題が見られた。

「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、まず、朝学習で取り組んでいる文章読解ドリルの解答時間に、丁寧な説明や類題を出題し考えさせる指導を全クラスで実施する。また、全教員で危機感を持って児童の実態を把握し、本領域の授業の充実にも努めることとする。とりわけ、児童の文章中の漢字使用率向上、主語と述語、修飾語と被修飾語の関係への理解については早急に指導を開始する。

「書くこと」については、これまでの本校の取組みを大切にしながらも、加えて、文章全体の構成や展開について重点的に指導する必要があると感じた。説明的文章の学習指導法を校内研修し、授業改善を図る。説明的文章における「頭括型」、「尾括型」、「双括型」を理解させ、構成を捉えさせながら学習指導を行うこととする。

【算数】

計算結果について言葉や数値を用いて記述すること、図形の構成の仕方に着目した図形の計量について考察することに課題が見られた。また、統計的な問題解決の方法を用いた考察についても全国平均を上回ってはいるものの、正答率は低く、課題と言える。

図形学習においては、高学年でも具体物を操作させる時間を確保する中で図形感覚を高めていく。また、図形の面積を求める際、図形を構成する要素などに着目して必要な情報を選び出し、面積の求め方について筋道を立てて説明できるように指導していく。計算やデータ活用領域の学習においても、解を出した後に説明する活動を大切に授業を行うことで課題を克服する。